

編集後記 From Editor

「スロー登山」という新しい山の楽しみ方が提唱されている（『山と溪谷』二〇〇五年九月号）。これは「スピードや効率を優先する現代登山の主流とは対照的に、マイペースで山に登り、山頂を踏むことにもこだわらず、ゆったりと山と山麓の自然の中で過ごす」という新たな価値の提案だ。私もこのスタイルの山歩きを実践して久しいが、そのワールドは自宅近くの低山が中心で、むしろ「スロー野山巡り」と言った方が正解だろう。

それにしても、わが家の子供達の「親離れ」も進み、私の休日もずいぶん気儘勝手に過ごせるようになったと思う。天気の良い休日の朝は、たとえ前夜の深酒が残っていても目覚めは不思議と爽やかで、さつさと朝食を済ませ、簡単に荷造りをして近郊の野山へ出かける。よく行くのはすぐ裏の明神山。愛犬を連れて、ゆっくり二上

二上山



時間かけ尾根道を周遊して帰ってくる。しかし何と言っても一番好きな山は、葛城山系の北端に位置し古代ロマン漂う「二上山」だ。二上山は、雄岳（517m）と雌岳（474m）の二峰が寄り添う美しい山で、雄岳山頂付近には、天武天皇没後、皇位継承に絡んで謀反の罪で刑死したとされる大津皇子（天武天皇の第三皇子）の墓が残っている。

その弟を偲んで詠んだ大津皇女の万葉歌、

うつそみの 人にあるわれや 明日よりは

ふたかみやま 二上山を 弟世とわが見む （巻二・一六五）

は、深い悲しみを湛えた歌として有名である。この大津皇子の物語は、国文学者・折口信夫氏の小説『死者の書』をはじめとして「多くの作家たちに強いイメージを与えてきた」（五木寛之『百寺巡礼奈良』）。そのひとつ、黒岩重吾氏の古代歴史小説『天翔る白日』を読むと、この時代と人々の凄絶なドラマに圧倒される。平安時代には、『往生要集』で有名な恵心僧都源信が二上山の彼方に沈む落日に來迎思想を感じ、西方極楽浄土の信仰を確立したと伝えられている。確かに大和盆地から見ると「落日の二上山」は美しい稜線のシルエットを西の空に浮かび上がらせ、荘厳ささえ感じさせる。そして平安末から鎌倉時代以降、この山は「葛城修験」一色の山へと変貌していく。まさに二上山は「それぞれの時代に信仰形態が異なる不思議な山」（香芝市二上山博物館長・石野博信氏）なのである。そんな背景をもつ二上山をモチーフにしたのが五木寛之氏の秀作『風の王国』だ。この作品は歴史の深淵に潜む近代社会の闇部をテーマに、怒涛の物語を展開する。

こう書くと、二上山にはどこか重く暗い印象が漂うが、実際は冒頭の「スロー登山」にふさわしい、実に気持ちのいい山なのだ。私は年間で三十回ほどこの山に出かけるが、ある時、山中で知り合った六十がらみの白髪の人から、地図にない「人知れず」の古道を教えてもらった。その古い山道をしばらく登ると「東の行場」に行き当たる。かつて修験者がしたように、その岩場に立つて遙か眼下に広がる大和盆地を見下ろすと、古代大和のいにしえから連綿と続く歴史と人の織り成す風景が、悠然と蘇ってくるような気がするのである。

その人はこう言った。二上山は歴史や宗教、民俗学、地質学や気象学と、本当にいろんな観点からアプローチできる山なんです。飽きないんだよねえ。——都心部の生活もいいだろう。しかしこんな身近にある贅沢な時間の過ごし方は、もって捨てる

難い。

——河瀬 隆

表紙写真 [上] 奈良市北部にあるコーポラティブ住宅「つなね」 [下] 海岸部に集合住宅が建ち並ぶ神戸市の東部新都心「HAT神戸」の広場
裏表紙写真 [上左] 大阪都心のホームオフィスにて [上右] 大阪・天満の古い市場と高層住宅 [下左] 京都町家の格子の塗り替え
[下右] 大阪・空堀にある町家を利用したデイサービスセンター「陽だまり」

CEL 77号 特集 ■ 新しい居住スタイル

発行●平成18年6月25日 頒価1,000円(送料290円)

■発行 大阪ガス エネルギー・文化研究所
〒541-0046 大阪市中央区平野町4-1-2

■発行人 真名子敦司 *Atsushi Manago*

■編集人 河瀬 隆 *Takasbi Kawase* / 弘本由香里 *Yukari Hiromoto*

編集●関西ビジネスインフォメーション(株)内 CEL編集室
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-18
住友中之島ビル7F TEL.06-4803-2307

印刷・製本●日本写真印刷株式会社

RESEARCH INSTITUTE FOR CULTURE, ENERGY & LIFE © 2006 OSAKA GAS CO.,LTD

禁無断転載複製

※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は必ずしも小社の見解を表すものではありません。

本誌・バックナンバーのコンテンツや当研究所の活動内容はインターネットホームページ [http://www.osakagas.co.jp/cel/] でご覧いただけます。

本誌に関するお問い合わせ、ならびにご購読申し込みや送付先変更等のご連絡は CEL編集室 Tel.06-4803-2307 Fax.06-4803-2210 cel@kbicom.net まで